

発刊のあいさつ

浦添市教育委員会 教育長 宮城 清

浦添市教育委員会は、一九八七年度（昭和六十二年）より「琉球王国評定所文書」刊行事業を推進してきました。「琉球王国評定所文書」は、琉球近世史研究にとって貴重な史料であるばかりでなく、東アジア世界の同時代史料としても重要な意味をもっており、既刊は県内外にとどまらず、海外においても、はばひろく研究に活用されています。

浦添市は古琉球以来の歴史・文化の伝統をふまえ、「太陽とみどりにあふれた国際性ゆたかな文化都市」「教育の進展、文化の高揚をめざす都市づくり」を目指しています。古代の祭祀歌謡集『おもろさうし』にも「うらおそい」と謡われた当市は、かつての王都として栄えた時代の理想を胸に、市民の誇りと自信を培い、文化の創造と発展に寄与することを目的に、市の文化事業の一環として、「琉球王国評定所文書」を刊行してきました。

今年度刊行の「琉球王国評定所文書」第十八巻には、内務省作成「旧琉球藩評定所書類目録」の通し番号で、一九三二号・一九三三号・一九三四号・一九三五号・一九三六号・一九三八号・一九五〇号・一九五二号、以上八つの文書と、「目録」にはない漢文史料（丙七号）が収録されています。

これらの文書群は、内務省の「目録」では「補遺」の項に分類されている史料で、作成された年代も幅があり、主題も多岐にわたっています。ただし、既刊分を補うに足る、多彩かつ貴重な記録を含み、史料集としての「琉球王国評定所文書」の掉尾を飾るにふさわしい内容となっています。とりわけ、フランス人宣教師フォルカードとの交渉の

直接の記録（一九三二号）や、外国船来航に伴う諸問題を協議する中国当局との往復文書群（丙七号）など、異色の史料を多く収録していることが、本巻の特色と言えましょう。

また、一九三三号、一九三六号の二文書は、「沖縄県史料」前近代3ペリー来航関係記録（一九八四年）に既に収録されていますが、他文書との関連もあり、今回あらたに収録したものです。これらの史料が多くの方々の市民をはじめ、県内外、海外の研究者の間で活用されることを願っています。

最後に、本事業のために貴重な史料を提供し、また、刊行について御快諾下さいました、東京大学法学部法制史資料室関係各位、また史料の筆耕解読にご協力下さいました研究者各位に深く感謝申し上げます、発刊の言葉といたします。

二〇〇一年（平成十三年）三月吉日